

2019年度 広島大学大学院工学研究科 海外インターンシップ教育事業
海外共同研究（4D型教育プログラム） 募集要項

1. 事業の概要

【海外インターンシップ教育事業について】

言語・文化・慣習等の壁を超えて日本と海外の長所を融合し、グローバル化時代の新たな問題を解決することのできる国際技術者の育成を目的とした教育事業で、平成13年度より開始した「ECBOプログラム」と、平成18年度より開始した「海外共同研究」の2つから構成されます。

【ECBOプログラム】

毎年約10名の大学院生を、海外に進出している日系企業へ1ヶ月程度派遣し、インターンシップを実施します。

【海外共同研究】

毎年約10名の大学院生を、広島大学海外交流協定校へ1ヶ月程度派遣し、共同研究を実施します。

派遣された学生に対しては、単位認定（1単位）を行います。

両プログラムとも、現地研修だけでなく、事前研修（英語学習・事例研究）と事後研修（PBL教育）を組み合わせ実施します。

【海外共同研究の目的】

国際化の促進並びに国際感覚を持った優秀な学生の育成のため、学生を海外の交流協定校に派遣します。「海外共同研究」に参加することにより、国際環境の中で自己のテーマをさらに広く高い視野から見つめると同時に、相手校との共同研究を実施し自信を深め、グローバルな環境の中で研究のあり方を習得する機会とします。

学生の研修経験をより実効性の高いものとするため、派遣前に英語によるコミュニケーション力向上のための特別指導などにより十分な事前研修を実施します。現地研修終了後は、現地で得られた成果を踏まえて研究を継続します。

研修修了者には、工学研究科共通科目「海外共同研究Ⅰ」または「海外共同研究Ⅱ」の単位認定（1単位）を行います。また、優秀な研究成果が得られ、学生が希望する場合には翌年度に2回目の派遣を行い、「海外共同研究Ⅱ」の単位認定（1単位）を行います。

2. 応募資格

以下のすべてに該当する者を応募の対象とします。

- (1) 工学研究科の大学院生であること。
- (2) 人格に優れ、心身ともに健全であること。
- (3) 現地研修を遂行するうえで必要な英語能力を有していること。
- (4) 派遣先研究機関の受入要件を満たすこと。

注 外国人留学生の場合は、事前に指導教員を通じてプログラム担当教員に相談してください。

3. 派遣先ならびに派遣予定人数

以下の海外交流協定校へ、学生を派遣することを予定しています。

なお、派遣先の現地研修テーマについては、担当教員と応募前に相談しておくこと。

【研修テーマと派遣人数（2019年3月1日現在）】

派遣先 海外交流協定校	派遣 人数	現地研修テーマ	担当教員 (所属専攻)
上海交通大学 (中国)	1	ガソリン噴霧の雰囲気導入特性	西田 恵哉 (機械システム工学)
大連理工大学 (中国)	1	ディーゼル噴霧の蒸発特性	西田 恵哉 (機械システム工学)
バンドン工科大学 (インドネシア)	1	金属基複合材料の材質制御と多機能性の評価	佐々木 元 (機械物理工学)
チュラロンコン大学 (タイ)	1	タイのバイオマスの有効利用	松村 幸彦 (機械物理工学)

ペトロナス工科大学 (マレーシア)	1	マレーシアのバイオマスの有効利用	松村 幸彦 (機械物理工学)
マレーシア科学大学 (マレーシア)	1	マレーシアのバイオマスの有効利用	松村 幸彦 (機械物理工学)
ボゴール農科大学 (インドネシア)	1	インドネシアのバイオマスの有効利用	松村 幸彦 (機械物理工学)
国立中央大学 (台湾)	1	Comsol による半導体の熱解析	井上 修平 (機械物理工学)
アルバータ大学 (カナダ)	1	ホットワイヤ法を用いた高能率溶接技術の開発	山本 元道 (機械物理工学)
ウォータールー大学 (カナダ)	1	溶接継手部の特性評価	山本 元道 (機械物理工学)
ケベック工科大学 (カナダ)	1	各種接合継手の強度評価	山本 元道 (機械物理工学)
マヒドン大学・ラジャマンガラ大学・MTEC (タイ)	1	高能率溶接技術と自動化技術	山本 元道 (機械物理工学)
釜山大学校 (韓国)	1	新規ペロブスカイト型太陽電池材料の評価	大下 浄治 (応用化学)
フィリピン大学ディリマン校 (フィリピン)	1	石炭灰造粒物による下水フィルターの開発 (フィリピン)	日比野 忠史 (社会基盤環境工学)
釜慶大学校 (韓国)	1	新しい石炭灰造粒物の開発と利用 (韓国)	日比野 忠史 (社会基盤環境工学)
エジンバラ大学 (英国)	1	海洋エネルギー利用に向けた数値波動水槽の開発	陸田 秀実 (輸送・環境システム)
ノッティンガム大学 (英国)	1	柔軟発電素材を用いた海洋エネルギー利用に関する研究	陸田 秀実 (輸送・環境システム)
国立台湾大学 (台湾)	1	海洋で使用される構造体周りの流れと力に関する研究	田中 義和 (輸送・環境システム)
バンドン工科大学 (インドネシア)	1	画像相関法を用いた鉄筋コンクリート部材の微細ひび割れとひずみ度分布評価	日比野 陽 (建築学)

※派遣予定箇所：9 カ国・地域，18 大学 派遣予定人数：19 名

4. 研修内容について

海外交流協定校で、一定の責任をもちつつ、共同研究を遂行する。共同研究の内容は、派遣先の教員・指導教員との事前相談を行ったうえで定める。研修生は、事前・事後研修を受け、スムーズなプログラム遂行を図るとともに、成果をより確実なものとする。

区分	課題内容
事前研修	・本プログラムの趣旨理解と準備教育

	<ul style="list-style-type: none"> ・国際環境，研修実施国の国情，経済，市民生活などに関する一般的学習 ・共同研究遂行のための事前準備（派遣先の教員・指導教員との事前相談等） ・工学研究科共通科目「技術移転論（MOT-4）」の受講（必修） ・「プレ・アカデミック・イングリッシュⅡ」と「アドバンスト・イングリッシュⅠ」の2科目のうち1科目以上の履修と単位取得（選択必修） ・大学院共通授業科目の「MOT とベンチャービジネス論（MOT-1）」及び「コミュニケーション能力開発」（先端物質科学研究科開設）の受講（要望） ・工学研究科が指定する語学学習の受講 ・「e-learning Newton TLT（完全習熟トレーニング専用プログラム）」による英語学習（必修） ・「海外渡航リスク管理セミナー」の受講（必修） ・「派遣前最終報告会」での発表（必修） ・その他，必要に応じて求められた課題等
現地研修	<p>【現地研修の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の教員・指導教員との事前相談において決定した研究計画に基づき，共同研究を遂行する。 ・現地研修の成果は，中間・最終発表を通じて，派遣先の教員・指導教員の前で報告を行う。 <p>【研修期間】</p> <p>2019年8月下旬から9月下旬までの1ヶ月程度。ただし，研修先の都合により変更になることもある。</p>
事後研修	<ul style="list-style-type: none"> ・「帰国報告書」の提出（必修） ・現地研修の成果を踏まえた研究の継続 ・工学研究科共通講義「技術移転演習（PBL）」の受講（必修） ・現地研修後に受験したTOEIC®スコアの提出（必修） 原則11月実施の学内TOEIC IPテストを受験すること。 スコア提出締切：2020年3月13日（金） ・「最終報告会」での発表（必修） ・「最終報告書」の作成・提出（必修） ・その他，必要に応じて求められた課題等

※研修課題については，授業等の開講状況により変更となる場合があります。

5. 応募手続について

【応募申請書類受付期間】

2019年4月4日（木）から2019年4月10日（水）17時まで（必着のこと）

【応募申請書類提出先】

広島大学東広島地区運営支援部工学研究科支援室（国際事業担当）

〒739-8527 広島県東広島市鏡山一丁目4-1

Tel: 082-424-4361,3503 Fax: 082-424-5461

E-mail: kou-gaku-daigakuin@office.hiroshima-u.ac.jp

【応募書類等】

・応募申請書	所定の様式を使用してください。
・志望理由書	所定の様式を使用してください。
・TOEIC®スコア証明書（写し）	最新のTOEIC®スコア（学部3年次以降に取得したスコア証明書）を提出してください。 ※最終選考までにTOEIC®500点以上を取得することを合格の条件とします。

6. 派遣学生選考方法について

派遣学生の選考は，第1次選考と最終選考に分けて実施します。

【第1次選考】

第1次選考は，応募学生全員に対し，書類審査（志望理由書）を実施し，採点結果に基づき選考します。

第1次選考結果通知日：2019年4月25日（木）

※応募学生全員に対し，メールにて通知します。

【最終選考】

最終選考は、第1次選考の合格者に対して実施する「個人面接」と「英語プレゼンテーション」の採点結果に加えて、書類審査（志望理由書）の採点結果、TOEIC®スコア（500点以上を合格の条件とします。）ならびに事前研修への取り組み状況を考慮して、総合的に選考します。

試験実施日時ならびに試験内容：

日時	試験内容
5月27日（月）	個人面接： 志望動機、派遣に対する意欲、派遣に向けての準備状況等に関する試問を行います。
5月28日（火）	英語プレゼンテーション： 英語によるプレゼンテーションならびに質疑応答を行います。 ※プレゼンテーションの内容については、別途お知らせします。

最終選考結果通知日：2019年6月上旬

※最終選考受験学生全員に対し、メールにて通知します。

7. 2019年度 説明会・選考会等実施スケジュール

2019年度の実施スケジュールを以下に示します。

日時	項目
4月3日（水）	応募希望者向け説明会： プログラムの概要と、応募にあたっての注意事項の説明を行います。
4月4日（木） ～ 4月10日（水）	応募受付期間： 応募希望者は、所定の書類を工学研究科支援室（国際事業担当）あてに提出してください。
4月25日（木）	第1次選考結果通知
5月8日（水）	派遣候補学生説明会： 第1次選考合格者を対象に、以下の説明を行います。 ・最終選考（個人面接・英語プレゼンテーション）について ・事前研修（英語 e-learning 等）の受講について
5月27日（月）	最終選考会（個人面接）
5月28日（火）	最終選考会（英語プレゼンテーション）
6月上旬（予定）	最終選考結果通知
6月14日（金）	派遣説明会： 最終選考合格者を対象に、以下の説明を行います。 ・派遣にあたっての各種注意事項について ・海外旅行障害保険への加入について ・派遣前最終報告会について
6月下旬（予定）	海外渡航リスク管理セミナー： 詳細な開催日時・場所等については、決定次第別途お知らせします。
7月中旬（予定）	派遣前最終報告会： ※派遣開始時期が早い者については、前もって実施します。
8月～9月（予定）	現地研修（1ヶ月程度）
10月～	事後研修開始
12月26日（木） （予定）	最終報告会

※日程等については、都合により変更となる場合があります。

8. リスク管理（傷害保険への加入等）について

応募学生には不測の事態に備え、「学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）」（大学が一斉加入済み）に加え、「学研災付帯賠償責任保険（略称「学研賠」）」及び「海外旅行保険」への加入を義務づけています。上記に加えて派遣にあたり、海外でも利用可能な携帯電話の持参を義務づけています。

9. 経費負担

学生派遣に必要な経費（国内交通費・国際航空運賃・ビザ代・宿泊費・海外旅行保険代等）については、7万円を学生の自己負担とし、残りについては工学研究科（または受入れ機関）が負

担します。

ただし、派遣に必要な経費は先立って支払う必要があります（派遣終了後に支給します）。

なお、現地研修中にかかる食費、交通費などの費用、「学研賠」加入費用、海外でも利用可能な携帯電話の費用等は自己負担とします。

10. その他注意事項

- ・派遣先の諸規則、及び受入れ担当者の指示・命令を遵守すること。
- ・派遣先の担当者が、正当な理由から研修を続行することができないと判断した場合には、広島大学の担当教員と協議のうえ、研修の中止ならびに途中帰国を指示することがある。
- ・現地の治安情勢に十分注意し、責任ある行動を取ること。
- ・派遣国・地域等の治安状況等により、派遣先における安全が確保できないと判断した場合には、派遣の中止あるいは途中帰国を指示することがある。

11. 問い合わせ先

広島大学大学院工学研究科 准教授 陸田 秀実

Tel: 082-424-7778

E-mail: mutsuda@hiroshima-u.ac.jp

広島大学東広島地区運営支援部工学研究科支援室（国際事業担当）

〒739-8527 広島県東広島市鏡山一丁目 4-1

Tel: 082-424-4361,3503 Fax: 082-424-5461

E-mail: kou-gaku-daigakuin@office.hiroshima-u.ac.jp

ホームページ：

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/eng/international/Internship>